

## 木曾義仲の史跡を訪ねて — 華甲大学 3年ぶりの研修旅行 —



赤沢自然休養林も満喫

華甲大学運営院長

西塚孝義

秋晴れの10月21日、木曾義仲ゆかりの木曾地方へ華甲大学では3年ぶりとなる日帰り研修旅行を行いました。  
早朝鼎公民館を出発し

最初の目的地赤沢自然休養林へ向かい、行きはトロッコ列車に乗車、紅葉が始まった景色を眺め、帰りは徒歩にて雄大な自然森林を満喫しました。  
その後、木曾義仲のお墓と石庭がある「興禅寺」を拝観し、続いて江戸時代を通して木曾を治めた「山村代官屋敷」を見学。最後に義仲と一族の歴史を知ることができ「德音寺・義仲記念館」を参拝見学しました。  
事前の講座で学習をした研修でしたが実際に現場で見聞きし、大変有意義な歴史探訪の一日でした。

**えんはくぐい**  
コロナの感染拡大は依然、大きな影響をもたらしており、従来の生活のスタイルが大きく変わりました。少し辛抱すれば、元通りの生活が戻ってくるというのであれば、多少不自由なことや窮屈なことがあつたとしても我慢できるかもしれません。日々報道されるニュースを見る限り、どうやらそう簡単にはいかないようです。

しかし最近、様々な自粛が緩和されてきており、話題のものでは、コロナ禍で落ち込んだ日本の国内旅行事業を支援するため、観光庁が期間限定で全国旅行支援事業を始めました。この支援を受けると旅行代金が最大で40%の割引。さらには旅行先の飲食店やお土産屋さんで使える可能なクーポン券もプレゼントされるといいます。利用条件はあるにしてもそれをクリアすれば格安で旅行が楽しめます。今はまさにウィズコロナ時代。この支援が終了しても今後様々なコロナで落ち込んだ業界を救う対策が講じられてくると思います。それらを活用しながら、コロナ時代を楽しんでいければと思います。

下茶屋 野村邦彦

# 秋晴れのもと 2000人超の人でにぎわう

## ふるさと鼎ふれあい広場・文化祭

### 文化祭の大切さを感じる

文化委員長 田中真司

11月5日、6日の二日間、晴天に恵まれる中、約2千名の方にご参加とご協力を賜り、文化祭を無事に催行することができました。前年度より日程を大きく変更し、コロナ禍の制約を受入れての開催に至るには、経験豊富な区民の皆様から頂きました知恵と、開催に向けて様々なご尽力をさされてこられた皆様のおかげ

あつてのものと思います。世代を超えたあらゆる表現が一堂に介し、それぞれに学びと感動が得られる事業は多くありません。また都市部に比較し、楽しむイベントも少ない中、あらためて公民館事業、文化祭の担い手の大切さを感じることができました。

更に次回は多くの皆様の笑顔溢れる交流の場となりますよう改善を図り、充実の二日間とできますよう努力して参りたいと思います。



鼎小学生と大人の合同合唱

諸所不手際があつたかと思いますがご理解とご協力を賜りました皆様に感謝を申しあげます。ありがとうございます。



▲おみくじ祭り  
◀マジック



ポッチャ

### ニユースポーツ 体験会を通して

体育委員長 桐山直登

今期はコロナの影響によりなかなか行えてい

なかったニユースポーツ体験会で、ポッチャを実施することができました。お子さんから年配の方まで、たくさんの方々から体験していただくことができました。体験した方からは、ペタンクに似ているとの感想を多くいただきました。子どもたちはシンプルに的に自分のカラーボールを投げるのが楽しいようでした。改めて、幅広い年齢層の方々が楽しめるスポーツだと感じました。

ありがとうございました。

### 法被の意匠を

広報委員長 櫻井勝司

鼎10地区には、伝統の「法被」が存在します。今年の鼎コマーシャルは、産土神を祀る神社祭典の奉納舞などに着用している法被の意匠をテーマとしました。

委員が由来を深掘りし、区民が撮影モデルをして作品に集約しています。文化祭での公開に合わせ法被を会場展示しました。



入賞	名前	タイトル
最優秀賞	戸崎道夫	名残の花火見物
優秀賞	水口芳昭	今年でお別れ
伝統文化賞	唐澤 聖	獅子舞奉納
川辺の賑わい賞	筒井崇博	松川に遊ぶ
地域報道賞	関島秀雄	五穀豊稔祈願
光彩作画賞	伊原耕作	ふるさと
春の色彩賞	加藤善子	春うらら
水面の彩り賞	加藤優治	春を飲む
春爛漫賞	前沢 憲	学舎の春
探求心健闘賞	尾澤一郎	星に願う
街角の心の癒し賞	戸崎 敬	バラの香り

(応募総数 24点)



最優秀賞 「名残の花火見物」 戸崎道夫

第20回県の景観写真コンテスト

**ともに収穫体験を**  
切石 須山雄嗣

ずんずんずん隊を通じて様々な農作業体験に家族で参加しており、今

実りの秋 稲刈体験  
ずんずんずん隊



回は稲刈りをさせていただけました。鎌を使う慣れない作業を、昨年は上手にできなかった年長の次女も、夢かなえ隊の方に教えていただきながら、長女やお友達と楽しそうに稲刈りやはざかけができました。情報が溢れる時代ですが、子どもたちにとって経験に勝る知識はないと考えております。冬の餅つきも楽しみにしつつ、今後も子どもたちと様々な公民館行事に参加させていただきます。



ひまわりの種 60kg集まる

今年度県公民館では、人権・平和学習「平和の種栽培事業」として、県地区のみなさんにひまわりを栽培していただきました。多くの方に取組んでいただき、約60kgのひまわりの種が集まりました。ご協力ありがとうございました。

たくさんのお水車があった  
県図書館 関口真紀

県のナゾを中学生と大人と一緒に調べることの活動は、中学生4人、大人2人の6人で行いました。「昔、自分の家が川だったって本当？」というナゾから、区誌の地図を見て昔は水車がたくさんあったことを発見。現地調査で、松川から水路を引き、水車は農業や発電に使用していたこと



を楽しく学びました。どんな調査結果になったか、ぜひ図書館でご覧ください。

県ナゾとき探偵団



# 鳩レースに魅入られて

大鹿和完さん(67歳) 東県



今回の「かなえびと」は、東県でおおしか歯科医院の院長の大鹿和完さんを紹介しす。

大鹿さんは、レース鳩の飼育と鳩レースに参加する趣味をお持ちです。現在、約150羽の鳩を飼育して、その内約80羽はレースに参加しています。

鳩レースとは、複数の愛鳩家が鳩を持ち寄り、決められたポイントから放して巣に帰るまでの速さを競うもので、ピーク時より少し競技人口が減少しましたが、今でも人気のある競技です。

大鹿さんが10歳の頃、鳩ブームでした。28歳頃から独学で一から勉強されて、本格的に飼育、レース競技に参加するようになりました。現在、喬木村に鳩小屋を設置し

て飼育しています。

鳩の魅力は、「天気の良い青空に、群れを成して自由に飛ぶ鳩を見ていると、どんな嫌なことでも直ぐに忘れてしまいます。レースは、ワクワクしながら帰還を待っている時間、上空から鳩が羽根をすばめて自鳩舎に入っていく時が感動です。自分の生活にも張りができ、活力となっています。鳩は家族同様に大切な存在です。手塩にかけて育てた鳩がNo.1鳩となり、血統をつくるのが夢です」と話していました。

鳩の健康状態を管理するのは難しいが、その苦勞が毎日とても楽しいそうです。

大鹿さんも鳩により、アルファード波いっぱい、元気いっぱい、今日の一日が始まり健康ですごせているようです。(取材：黒河内直弘)

## かなえびと

No.49



施設の老朽化に伴い、県文化センターホールのカーペットの張り替え工事を実施しました(総工費183万7千円)。

## カーペット リニューアル

コロナ禍も第7波と第8波の狭間の期間で、本館及び各地区で文化祭が開催されました。区民の皆様も楽しめたことと思います。

## 編集後記

これからは、対策と工夫により皆様方の笑顔が見られますように行事を計画していきます。ご協力をお願いします。(N・K)



## 大好きなバレーボール

一色 森<sup>もり</sup>

希<sup>のぞみ</sup>美<sup>み</sup>きん(6年生)

私は4年生からバレーボールを始めました。今年の8月には全国大会に出場することができました。大会ではミスも

多く思うように動くことができませんでした。

自分よりも上手い選手も沢山いました。

私はレシーバーとして活躍したいし、アタッカーにもなりたいです。まだ自分が納得したプレーができていないのもっと練習をがんばって強い選手になりたいです。



No.123